

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通して 教科のねらいに迫る授業づくり」

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第2学年 国語科学習指導案

単元名 そうぞうしたことを、紙しばいであらわそう

「お手紙」

■単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(知(1)ク)
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思C(1)カ)

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

- ・場面における重要な会話文やがまくんとかえるくんの行動など、物語の要点を捉える。

精査・解釈

- ・挿絵を見比べて、話し方や様子を思い浮かべ、がまくんとかえるくんの心情の変化に着目しながら読む。

考えの形成

- ・誰がしたことか、どのように読むのか、どんな台詞を付け足すかなどを考え、紙芝居の台本を作る。

共有

- ・紙芝居を見せ合い、読み方や付け足した台詞に着目し、互いの良さを伝え合う。

児童の実態

児童はこれまで、「ふきのとう」と「スイミー」の2つの文学的な文章の学習を行ってきた。「ふきのとう」では、登場人物の言動や出来事から気持ちを想像し、音読をした。「スイミー」では、物語の大体を捉え、内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ学習を行った。言語活動として新聞を書くことを設定したことで、ゴールイメージをもち、多くの児童が主体的に学習に取り組むことができた。しかし、語彙が少なかったり、書くことが苦手だったりする児童にとっては新聞を書く活動は難しかった。そこで、本単元では言語活動として紙芝居を設定することで書くことが苦手な児童も主体的に活動に取り組み、楽しみながら登場人物の行動を具体的に想像できるようにさせたい。また、物語の展開に沿って、がまくんとかえるくんの行動と心情がどう変わっていくかに着目させ、読みを深めていきたい。

■言語活動

学習のまとめとして紙芝居発表会を行うことを第1時で知らせることで、児童の学習意欲を高め、ゴールイメージをもって学習に取り組むことができると考えた。また、登場人物の行動や気持ちを基に場面分けを考えさせることで、内容や登場人物について理解を深め、物語の世界を豊かに想像することにつながると考えた。さらに、挿絵や登場人物の会話などから読み取った気持ちや、想像した行動を表現するために、読み方(調子、大きさ、速さ)を工夫したり、新たに台詞や文を付け足したりさせ、児童の言語感覚を養っていきたい。

これらの学習を通して理解した内容と自分の体験を結び付けて感じたことを表現したり、聞き手も読み手の解釈による表現の違いを見取り、互いの良さに気付いたりするのに、紙芝居は適していると考えられる。

以上のことから、単元を通した言語活動として紙芝居発表会を設定する。

■単元計画（全13時間）

第1次 学習課題の設定

- ① 教師の読み聞かせを聞き、初発の感想を書く。
- ② 学習計画を立てる。
☆音読をするには、登場人物の気持ちを理解する必要があることを押さえる。

取組①

第1時に紙芝居を使って読み聞かせをすることで、物語の世界に入り込みやすくする。

取組②

児童が学習のゴールイメージをもてるよう、「紙芝居」を行うという単元を通した言語活動を設定する。

第2次 学習課題について考える

- ③ 「お手紙」を読み、登場人物の台詞を確かめる。
- ④ 登場人物の行動や気持ちを基に、場面分けをする。
- ⑤～⑦
場面ごとにかえるくんやがまくんの行動を具体的に想像し、音読する。
- ⑧ 場面ごとにかえるくんやがまくんの行動を具体的に想像して音読し、紙芝居をする場面を決める。

取組⑥

二人の悲しい気分や、幸せな気分について問うことで、がまくんとかえるくんの理由の違いに気付かせる。

第3次 考えの形成・共有

- ⑨ 紙芝居を行う場面について、付け加えたい台詞を考えながら話し合う。
- ⑩⑪ 付け加えたい台詞や音読の仕方について話し合い、紙芝居の練習をする。
- ⑫ 紙芝居発表会をする。
- ⑬ 単元全体の振り返りをする。

取組⑦

児童が意欲的に紙芝居を行うために一番好きなところを問い、同じところを選んだ児童とグルーピングをする。

並行読み聞かせ

取組④

同シリーズの本を読むことで登場人物についてより深く想像できるようにする。

■学習指導過程（10/13時間）

- 1 読み聞かせを聞く。
- 2 教科書の全文を音読する。
- 3 本時のめあてを確認する。

取組③

紙芝居発表会を行うことを意識させるため、音読の時間をとる。

せりふや文をつけたしながら 紙しばいのれんしゅうをしよう。

・前時の学習を振り返り、本時の学習につなげやすいようにする。

- 4 付け足す台詞や文について話し合う。
 - ・一緒に紙芝居を行うグループで話し合う。
 - ・決定した台詞や文を台本に書き込む。

- 5 話し合ったことを取り入れながら、紙芝居の練習をする。
 - ・登場人物に合った声の調子や大きさ、読む速さに気を付けながら練習する。
 - ・グループでアドバイスしあう。

取組⑤

紙芝居の練習をする前に、それぞれの役についてどのような台詞を付け足すかやどのような読み方にしたらよいかを話し合うことで、自信をもって表現できるようにする。

取組⑧

自分が想像したことを表現するために、一緒に紙芝居を行うグループのメンバー（3、4人）と話し合い、考えを共有する。

- ・発表の仕方の例を示し、話し合いがスムーズに行えるようにする。
例) A 児 音読⇒こんな台詞を付け足しました。／こんな気持ちを込めました。
B 児 感想を伝える。「気持ちが表れていたよ。」「もっとこんな読み方をしたらいいんじゃない?」「私ならこんな風に読むよ。」など・・・
- ・選んだところの挿絵と文章を別の紙に印刷して渡し、絵を見ながら台詞や読み方を考えられるようにする。
- ・これまでの学習を振り返りながら考えるように助言する。
- ・机間指導をし、付け足す台詞や読み方の根拠を問うことで紙芝居の表現の仕方を考えさせる。
- ◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(観察、発言、ワークシート)

- 5 本時の学習を振り返る。
 - ・考えた台詞を発表する。

- ・何人か意図的に指名し、発表させる。
- ・次回はさらに紙芝居の仕方について話し合いを深め、紙芝居を完成させることを知らせる。

・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童が学習のゴールイメージをもっている。
- ② 児童が友達と必要感をもって対話している。
- ③ 自分の考えを再構築している。

本時における具体的な児童の姿

- ① 紙芝居を行うことを理解し、登場人物の行動や会話に着目しながら学習している。
- ② 場面の様子や登場人物の行動をもとに、紙芝居での表現の仕方について話している。
- ③ 音読により、自分が考えたことや理解したことを表現している。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《単元の導入の工夫》

- ① 第1時に紙芝居を使って読み聞かせをすることで、物語の世界に入り込みやすくする。
- ② 児童が学習のゴールイメージをもてるよう、「紙芝居」を行うという単元を通した言語活動を設定する。

《学習計画の工夫》

- ③ 毎時間音読を取り入れることで、語のまとまりや言葉の響き、リズムなどに注意して読む機会を設け、「紙芝居」に活用できるようにする。
- ④ 並行読み聞かせを行い、同シリーズの本を読むことで登場人物についてより深く想像できるようにする。
- ⑤ 紙芝居の練習をする前に、それぞれの役についてどのような台詞を付け足すかやどのような読み方にしたらよいかを話し合うことで、自信をもって表現できるようにする。

《具体的な学習活動の想定》

- ⑥ 二人の悲しい気分や、幸せな気分について問うことで、がまくんとかえるくんの心情の違いに気付かせる。

《学習形態の工夫》

- ⑦ 一番好きなどころを問い、同じところを選んだ児童とグルーピングをすることで、互いに相談し、紙芝居に意見を反映させながら意欲的に取り組むことができるようにする。
- ⑧ 自分が想像したことを表現するために、一緒に紙芝居を行うグループのメンバー（3，4人）と話し合い、考えを共有する。